

目的 近年の日常生活が物質的に豊かな現状にあり、色彩関係においても例外ではない。子どもの領域においても、カラフルな物質によって視覚の刺激頻度が高くなってきている。このような色彩情報社会において、子どもの情操・色彩感覚の発達を把握する必要があると考えている。今回は無彩色を含めて、各色相のトーン系列による嗜好調査から、子どもの色知覚を認識し、色彩嗜好の一助にしたい。

方法 被験児は5歳の幼稚園児、男児36名、女児33名計69名であり、調査日時は53年10月と11月中、秋晴れのさわやかな日の10:00~12:00 A.M.に行なった。調査方法はP.C.C.S.に基づいて11グループに分類された「ハーモニックカード166」を一覧して示し、①「一番好きなグループ」と②「一番嫌いなグループ」との双方を質問して回答させた。

結果 5歳になると現実のものをかなり正確に認識ができて、感情表現においても調整期といわれるように、色彩嗜好のトーン系列において、好きなトーンのグループと嫌いなトーンのグループの嗜好傾向はかなり明瞭であった。すなわち、好きなトーンの上位は、brightが51.4%で最も高く、且つ、嫌いなトーンにはみられなかった。2位のdeepは、17.1%の嗜好率であり、嫌悪率は2.9%で低い。他方、嫌いなトーンの上位は、無彩色34.4%、dark 18.5%、pale 11.4%であり、嗜好率においては三者共に2.9%と低い。

以上の結果から、幼児は明るい色調を最も好み、またdeep、vividのような濃い色を好み、その反面、無彩色、暗色、淡色は好まない傾向がみられた。しかし、各色相には単色の感情があり、トーン系列嗜好率との関係は今後の課題としたい。